



豊東小だより

令和4年1月8日 1月号
練馬区立豊玉東小学校
校長 梅津 靖子

夢を掲げる

校長 梅津 靖子

新年おめでとうございます。令和4年が始まりました。感染状況が大きく改善されて迎えた冬休みでしたので、それぞれの家庭で年末年始の過ごし方を工夫し、充実した毎日を過ごされたのではないかと思います。学校には、大きな怪我等連絡もありませんでしたので、児童らは、皆元気に過ごすことができたのだらうと安堵しています。本年も、児童一人一人が、ご家族や地域の皆様が、安全で健やかな1年を過ごすことができるようになることを心より願い、新年のご挨拶を申し上げます。

さて、年末のテレビ番組を見ている中で、昨年開かれた「ショパン国際ピアノ・コンクール」で、第2位を受賞された反田恭平さんの演奏を聴く機会がありました。このコンクールは、5年に1回開かれるもので、参加資格は16歳以上30歳以下に限られます。今回も全世界から500人以上の方の応募があったそうです。最終の3次予選を勝ち抜き、ファイナルに残ることができるのは10人。その中に、日本から参加の反田さんと小林愛実さんの2名が残りました。まずは、第4位を受賞した小林さんの演奏。繊細で澄み切った音色から広がる表現は、一つ一つの音を大切に大切に紡いでいることが伝わってきました。次は、反田さんの「英雄ポロネーズ」です。「英雄ポロネーズ」は、私自身も憧れの曲です。勇ましく潑刺とした音楽をイメージしていましたが、演奏が始まった途端、抱いていた曲のイメージが大きく覆され、戸惑いを覚えるほどでした。豊かでふくよかな音の流れ。英雄と呼ばれる者の堂々とした風格、その名にふさわしい懐の広さや深さまでが、その音楽から感じ取ることができるのです。演奏者自身が曲をどのように解釈し表現するのかは自由なのだと思得させられた思いでした。そして、巧みな技術が際立つのではなく、奏でる音楽が聴くものの心を震わせていくような演奏するために、どのような練習や取組を行っているのか興味をもちました。

反田さんは、プロとして演奏活動を行っているだけでなく、若手の演奏家のために、実力はあっても披露する機会が少ない演奏家のために、活動の場を設定する事業も行っているのだそうです。そして、その先には、「学び舎」をつくりたいという夢があるといいます。世界中から音楽を学ぶために若手が集まってくる「学び舎」です。その実現のために何をすべきか、今すべきことは何かを考え、計画し、実践しているのだそうです。反田さんにとって最後のチャンスとなるこのコンクールに応募して入賞することも、夢の実現のための一つだったのでしょうか。ですから、自身が、今回のコンクールで1位ではなく2位だったことも、次に1位となる演奏家を出すために取り組みなさいということと捉えていると語っていました。「夢は持つものではなく、掲げるもの」と考えているそうです。「掲げる」には、人目につく高い所に上げるという意味があります。目指すべき姿をこれと決めたならば、その実現に向けてすべきことを、計画的に実践することを自らに課していくという強い意思を表している言葉のように思えます。子供たちも、新しい年に迎えるにあたって、夢を、目標を掲げたことと思います。大きな夢や目標を飾りものにするのではなく、その実現に向かって、それぞれの学年のまとめとなる3学期にすべきことを決め、決めたことを粘り強く実践してほしいと思います。その一つ一つの積み重ねが、自分を自分らしく表現していく生き方につながっていくように思います。2学期の終業式では、校庭で、久方ぶりに校歌を歌いました。校歌の歌詞のごとく、豊玉東小学校という「むとせいそしむ まなびや」「のびるわれらの まなびや」に集う子供たちが、互いに高い思いを掲げ、心を磨き、この3学期もすこやかに成長をできることを願ってやみません。



お正月が過ぎると、急激な勢いで感染状況が変化してきています。3学期の様々な教育活動への影響も懸念されますが、基本的な感染防止対策を徹底して、教育活動の継続を図ってまいります。ご家庭におかれましても、基本的な感染予防対策を徹底し、毎朝の検温と健康観察、家族も含めて体調不良等ある場合には自宅待機とする、感染の状況を見極めて外出の仕方を考えるなど、改めての御協力をよろしくお願いいたします。今後の感染状況によって学校公開等が中止となる場合は、メールにて連絡をいたします。